

アルバカーレスT1&T2

★剛樹から新しく発売されたコマセキハダ専用ロッドが「アルバカーレスT1&T2」。前作のアルバカーレスに比べて粘りと感度が約20パーセントアップし、軟らかめのT1、硬めのT2と2種10アイテムをラインアップ。「155」は操作性を重視したショートモデル。「170&175」はパワーと感度、操作性などバランスに優れた中核モデル。「185&195」は汎用性を備えたロングモデルで、微かな変化を表現する柔軟な穂先とウインチファイトで大物を引き上げるバットパワーを両立。



T1 155

◎限界まで負荷をかけた曲がり。胴から元にかけてのパワーが際立つ



T1 175

◎限界まで負荷をかけた曲がり。ブランクス強い粘りが大物を釣り上げるパワーを向上させた

モンスターキハダをねじ伏せる究極のコマセ釣り専用ロッド 剛樹『アルバカーレスT1&T2』

●数々の強靱な大物竿を世に送り出してきたロッドメーカー「剛樹」から、相模湾のコマセキハダ専用竿の最新モデル「アルバカーレスT1&T2」がリリースされた。今回は剛樹フィールドテスト一隊が最新ロッドのお披露目で相模湾へと繰り出した模様をお届けしよう。



▲当日は25~45メートルの指示ダナを狙った



※価格は税別

| model | 全長 (m) | 継ぎ数 (本) | 自重 (g) | 先径 / 元径 (mm) | ウエイト負荷 (号) | ライン負荷 (号) | グラス含有率 | メーカー希望本体価格 (円) |
|-----------------------|--------|---------|--------|--------------|------------|-----------|--------|----------------|
| アルバカーレス T1シリーズ | | | | | | | | |
| T1 155 | 1.55 | 1 | 450 | 2.2/12 | 60~250 | 6~40 | 43% UP | 167,000 |
| T1 170 | 1.7 | 1 | 500 | 2.2/12.8 | 60~250 | 6~40 | 43% UP | 167,000 |
| T1 175 | 1.75 | 1 | 530 | 2.3/13 | 60~250 | 6~40 | 43% UP | 167,000 |
| T1 185 | 1.85 | 1 | 550 | 2.3/13 | 60~250 | 6~40 | 43% UP | 175,000 |
| T1 195 | 1.95 | 1 | 600 | 2.3/13.5 | 60~250 | 6~40 | 43% UP | 179,000 |
| アルバカーレス T2シリーズ | | | | | | | | |
| T2 155 | 1.55 | 1 | 480 | 2.2/12.2 | 60~250 | 6~40 | 43% UP | 167,000 |
| T2 170 | 1.7 | 1 | 530 | 2.3/13.3 | 60~250 | 6~40 | 43% UP | 167,000 |
| T2 175 | 1.75 | 1 | 560 | 2.3/13.5 | 60~250 | 6~40 | 43% UP | 167,000 |
| T2 185 | 1.85 | 1 | 580 | 2.3/13.5 | 60~250 | 6~40 | 43% UP | 175,000 |
| T2 195 | 1.95 | 1 | 620 | 2.3/13.8 | 60~250 | 6~40 | 43% UP | 179,000 |



T1 155

◎オモリ負荷120号の曲がり。竿先が柔軟で感度抜群

T1 175

◎オモリ負荷120号の曲がり。調子イメージは5:5~6:4



★アルバカーレスT1-175を使った和田にキハダがヒット!



★弦巻がコマセの指示ダナより15メートル下から誘い上げて食させた会心の1本



◀「ショートモデルの155は操作性が抜群! 手持ちで攻める釣りが好きな人にはたまりませんね」と山口も絶賛

▲剛樹ユーザーの明利も26キロ級を釣り上げた

▶「胴から元に張りがあるからコマセの振り出しも軽快です!」と本多も好感触



8月下旬、三浦半島剣崎松輪港の一義丸に参集した剛樹フィールドテスト一隊は本多裕二、山口信太郎、和田力彦の3名と、剛樹ユーザー有志9名。テスト一隊が手にしたロッドは剛樹のコマセキハダ専用竿の最新モデル、「アルバカーレスT1&T2」。

この最新ロッドは、近年大型化が進む相模湾のキハダに対応し、100キロオーバーのモンスター級も視野に入れて開発されたパワーモデル。最新技術を採用してブランクス繊維量を大幅に増やすことで、粘りが前作のアルバカーレスよりも約20パーセント(当社比)アップ。進化したブランクス繊維量の強靱な粘りが大物をリフトアップするパワーを向上させ、そのうえ繊維量を増やす

ことでブランクスが密になり、驚くほどの伝達率と感度を実現している。ラインアップは軟らかいモデルのT1と硬いモデルのT2の2機種10アイテム。今回は山口がT1・155、本多と和田がT1・175を使用、加えて剛樹の弦巻海謙が開発中のマグロ用ジギングロッドにてエビングで挑んだ。

7時前、湾中央のポイント沖ノ山付近

で船団に合流し、タナ35メートルでスタート。目下はキハダの群れは濃厚でコマセやエビングでアタリが連発する日もあれば、ほとんどの船がノーヒットの日もあるムラのある釣況。

しかし、この日はキハダとファイト中であることを知らせる回転灯を光らせる船がすでに数隻あり期待が高まる。開始間もなく和田の竿が曲がったが、他船の釣り人とオマツリしてバレてしまった。船団の動きは緩やかで食いそうな気配が立ちこめている。何度か流し変えた後、指示ダナ40メートルで有志の明利が食わせた。慣れたヤリトリで慎重に巻き上げ26キロ級を見事にキヤッチ。キハダの顔を見て船上のムードが一気に盛り上がる。

ミヨシの突き出しから竿を出し、エビングで黙々とシャクリ続けていた弦巻にヒット! 魚が走ればドラグを効かせて耐え、糸の出方が緩やかになるとポンピングを繰り返してグイグイ引き上げる。一進一退の攻防を征し無事釣り上げた獲物は24キロのキハダ。

その後は食いが一段落し、移動を繰り返したが後が続かず13時過ぎに沖揚げりとなった。

「今日は結果を出せませんでした、キハダはいるので釣れるまで通います」とテスト一隊は残念そうだったが、シーズン初期に船中2本は上出来。

最新ロッドのインプレッションは139ページをご覧ください。

★竿はクロマグロを視野に入れて開発中のジギングロッド。曲がりにまだまだ余裕がある



★ハリはAmizesuのキハダ専用環付きバリ「アルバカーレス2」を使用